

バナー広告の問題を解決して 急伸するアフィリエイト

松本光春●MM総合研究所所長

広告主とウェブサイトオーナーとが協力して商品を販売 副業ブームやブログによる後押しで2003年に大ブレイク

アフィリエイトは、近年広く普及し始めているインターネット広告のひとつである。アフィリエイトには元来「提携する、仲間になる」という意味があり、その言葉の通り、広告主とサイトオーナーとが相互協力をして、商品を販売していく広告システムである。より詳しくいうと、アフィリエイトとは、「ホームページやメールマガジンを閲覧したユーザーが掲載されたリンクをクリックし、商品を購入したり、サービスの申し込んだりした場合、商品の売上高の一部やサービスに付加された額のお金がそのサイト（ホームページ）やメールマガジンの運営者に還元されるシステム」のことである。アフィリエイトが普及し始めている理由は、クリック報酬、表示回数報酬を基本としたバナー広告システムの持つ問題を大きく解決したことによるだろう。バナー広告システムと異なり、アフィリエイトのシステムは、基本的に成果型の報酬である。そのため、サイトからの売り上げがあがらない限り、サイトオーナーには一銭も入らない。ユーザーに対して有用な情報を提供しない限り、ユーザーはそのサイトから商品を購入しはしないだろう。そのため、サイトオーナーにはより良いサイトを作るように圧力がかかるのだ。

一方、広告主からみると、アフィリエイトはリスクが低く、費用対効果の高い広告制度だ。売り上げが立ってからはじめて支払いをすればいいアフィリエイト広告は、企業からみて極めて優れた広告制度だといえる。そのため、アフィリエイト広告への参加企業が短期間に急激に増加したのだ。バナー広告とアフィリエイトシステムの特徴を表1に示す。

アマゾンの拡大を支えたシステム

アフィリエイトシステムはアマゾンが1996年に開始したアソシエイトプログラムに端を発する。

アマゾンは自らの開発したアソシエイトシステムによってたくさんのアフィリエイトサイトを獲得し、大きな売上増を果

たすことになる。アマゾンはこのシステムによって瞬く間に売り上げを伸ばし、世界有数のオンラインショップへと発展していくことになった。

ところで、サイトオーナーから見た場合、ひとつひとつの企業と提携するのは手間がかかり効率が悪い。また、広告主からみても自社でアフィリエイトシステムを構築することにはコストがかかる。この狭間で広告主とサイトオーナーの仲立ちをするASP（アフィリエイトサービスプロバイダー）が現れる。

ASPはアフィリエイトのためのリンクやサイトオーナーへの報酬管理、データの統計情報などの総合プログラムをテンプレートとして用意する。そして、そのシステムを広告主に有償で提供した。ASPのシステムを用いることで、広告主は低コストでアフィリエイトに参加することができる。また、サイトオーナーは各広告主といちいち提携する手間を省くことが可能になる。

そのため、現在では多くの企業、サイトオーナーがASPを経由する形でアフィリエイトを利用している。

メディアでネット収入が取り上げられる

2003年には『AERA』などの一般雑誌にアフィリエイトで成功したサイトオーナーへのインタビュー記事が掲載され、2004年には日本経済新聞や『THE21』などの雑誌でアフィリエイトに関する特集が組まれた。また、2004年にはアフィリエイトに関する入門書もいくつか販売されている。

現在では、アフィリエイトシステムを利用して、月に数十万円から数百万円単位の収入を手に入れるサイト運営者も多く見受けられる。中にはアフィリエイトシステムを利用して法人を立ち上げ、生計を立てる人も出現している。

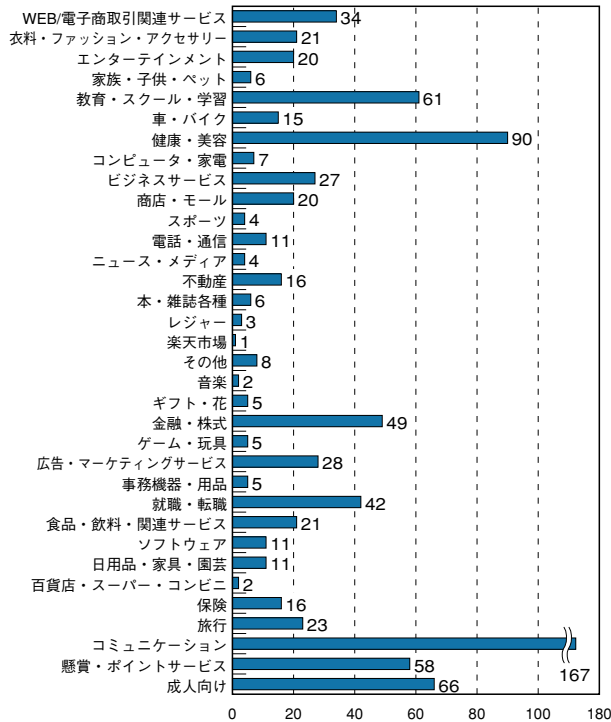
この流れは、「金持ち父さん」シリーズや「週末起業」などといった書籍に象徴される、いわゆる副業への関心の高まりと、常時接続環境の普及に伴うイーコマースの拡大によるところが大きいといえる。また、コンピュータの技術に通じていない人にもホームページが作成できるブログの普及がアフィリエイト普及の一助となっている点も付記しておくべきだろう。ブログの出現によって、ホームページ作成の敷居が下がり、初心者でもアフィリエイトに容易に参加できる環境が整いつつある。トラフィックゲートなどのASPに出資してい

表1 バナー広告とアフィリエイトシステムの特徴

	バナー広告	アフィリエイト
報酬	バナーがクリックされたら	商品が売れたら
広告主から見た場合	広告の効果がわからない	広告の効果が明確
サイト運営者から見た場合	ユーザーのアクセス数を重視	ユーザーの質を重視
顧客から見た場合	質の悪いサイトが増える傾向	質のよいサイトが増える傾向

さまざまな業種の販売サイトへと誘導するアフィリエイト

資料6-1-8 エーハチネットの広告主



資料6-1-9 トラフィックゲートの広告主

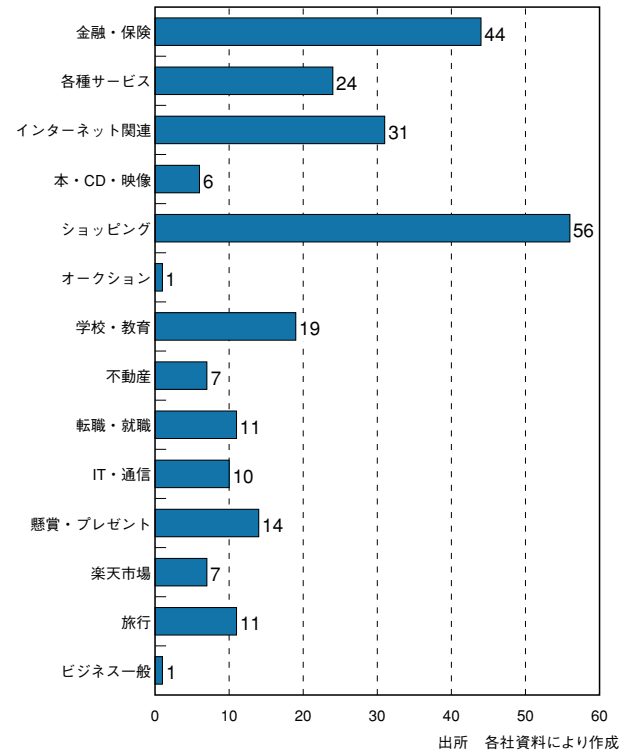


表2 アフィリエイトサービスプロバイダー（ASP）の例

サービス名	バリューコマース	トラフィックゲート	エーハチネット	リンクシェア
URL	http://www.valuecommerce.ne.jp/	http://www.trafficgate.net/	http://www.a8.net/	http://www.linkshare.ne.jp/
広告主	1,700社以上	200社	広告主：500社	約120社
運営会社	バリューコマース株式会社	株式会社トラフィックゲート	株式会社ファンコミュニケーションズ	三井物産株式会社
資本金	6億4,500万円	2億円	2億2,615万円	1,924億8,708万4,922円
設立年月日	1996年3月12日	2001年2月5日	1999年10月1日	1947年7月25日
概要	バリューコマース株式会社が運営する国内最大級のASP。提携している会社は1,700社以上、提携サイト10万サイトを誇る（2003年11月現在、パートナー数は申し込みベース。出所：バリューコマースホームページ）。	株式会社トラフィックゲートには、日本最大級のショッピングモール「楽天」を運営する楽天株式会社が出資しており、ASPとして楽天と密接な関係を持っている。そのため、トラフィックゲートは楽天への柔軟な商品リンクを数多く有している。	エーハチネットは、株式会社ファンコミュニケーションズが運営するASPである。バリューコマースと並び日本最大級のASPであり、500社以上の提携企業を有する。	三井物産株式会社が米国リンクシェアと共同で運営する。米国リンクシェアはアメリカでも一部上場企業が多数契約を結んでおり、ほかのASPにはない広告主を抱えているのが特徴。

る楽天は、この流れを受け、楽天広場と呼ばれるアフィリエイトと親和性の高いプログシステムを初心者ユーザーに提供している。

2002年の5倍にまでユーザーを伸ばしたASPも

ASPも事業を拡大している。大手ASPのリンクシェアが提供する「リンク」を経由してオンラインショップへと送ら

れたユーザーは2003年で月間1,000万人と2002年の約5倍にまで増加し、その月間売上高は27億円に達している。また、大手ASPトラフィックゲートの月間売上高は40億円に上る。

アフィリエイトの普及に伴う広告主の増加、技術的敷居の低減、副業への関心の高まり、オンラインショッピングの普及などといったさまざまな要因が、今後もアフィリエイトへの関口を広げていくことだろう。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp